

第3期別府市総合戦略(案)に対するパブリックコメント募集結果について

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	・農林水産業の新規就業者数のKPIが目標値を下回っている。現状値(R5)が4人であるのに対し、目標値(R11)が3人と設定されており、産業の創生という観点から考えると、目標設定が現状維持または低下を容認しているように見えるが、やむを得ない認識か。 ・配水池の耐震化率と基幹管路の耐震適合率について、配水池の耐震化率は目標値が大幅に向上しているのに対し、基幹管路の耐震適合率の目標値の向上が小幅に留まっている。災害に強いまちづくりという目標を達成するためには、基幹管路の耐震化もより積極的に進める必要があると思う。 ・現状値が不明なKPIを設定することについて、目標値の設定が恣意的になる可能性があるのではないか。客観的なデータに基づかない目標は、現実離れた非現実的なものになるか、容易に達成可能な低い水準に設定されることが多々あり、戦略の有効性を評価する上で支障になると思われる。 ◦オープンデータ化した温泉入浴効果のエビデンス数 ◦研究・実践拠点施設の設置に係る進捗率 ◦BEPPU FAN TOWNの新規サポーター登録数 ◦市内中小企業に対する調査訪問数 ◦空き店舗の再生件数 ◦障がいのある人の家族の就労支援の新規利用者数 ◦公園の整備・維持管理について満足している人の割合 ◦新規プロモーション事業数 ◦湯けむりライドシェアの年間延べ利用者数 ◦プラン総数に対しての割合 これらのKPIについては、現状値がそもそも不明なため目標値の設定根拠に乏しく、一般常識で考えると不適切なKPIではないか。 ・KPIと戦略の関係性について1点疑問がある。「別府競輪の事業利用者数」について、競輪の利用者数を増やすことが、具体的にどのように市民生活の向上につながるのかが不明確である。「新規利用者の獲得を含め、競輪などの既存の財源の収益性を向上させ、市民生活向上の財源として事業収益を一般会計に繰り出し」と記載があるので、営業利益率や一般会計への繰出額などをKPIとすべきではないか。	・農林水産業の新規就業者数につきましては、現状値4人に対し、目標値を3人としておりましたが、こちらは過去5年間(R1～R5)の中央値(1人)、平均値(2.2人)を上回る値として目標設定しておりますので、数値の低下を目指しているものではございません。 なお、5年間の目標値として設定することから、R11目標値を「19人(累計)」と修正いたします。 ・配水池等の耐震化につきましては、配水池が29施設なのに対し、基幹管路の総延長は約68kmとなっており、割合でみると小幅になりますが、こちらも計画的に耐震化を推進しております。 ・KPIの「ー」表記につきましては、各取組において、現状値は原則として令和5年度の数値を記載していますが、事業実施前など数値が把握できないものについては「ー」としており、不明ということではありません。 ただし、わかりにくい表記となっていることから、説明を追加します。 ・競輪の事業利用者数について 第2期の総合戦略においては、事業収益率をKPIとしていましたが、事業収益を持続的に確保するためには、新規利用者の獲得が必要であること等を鑑み、事業利用者数を新たにKPIとして設定しております。
2	①スポーツツーリズム施策による誘客数の目標値は具体的施策があれば目標が増加できるのではないかと。 ②ふるさと納税の目標値は、ふるさと納税の目標を大幅にアップできるように返礼品の開発を考えてはどうか。 ③取組⑤地域における子育ての支援の目標が現状値と変わっていないが、子どもの支援が手厚くできなければ市の発展はない。目標をアップすべきではないかと。 ④平均寿命と健康寿命の男性の目標が現状維持は、男性の健康寿命は1以内を目指すとして明記してはどうか。	①スポーツツーリズム施策による誘客につきましては、具体的な施策は各年度の予算編成において検討、実施してまいります。 ②ふるさと納税の返礼品開発について、現在も実施中ですが、引き続き、さらなる魅力ある返礼品開発に継続して取り組んでまいります。 ③少子化により対象となる子どもの数が減少する中、量的には現状維持としておりますが、質的な向上は常に行ってまいります。 ④KPIの値は、過去10年間の平均値を根拠としており、年齢差をそれ以下にすることを目標としております。もともと男性は、女性と比べて平均寿命と健康寿命の差が小さく、平均寿命も延びています。近年、壮年期のメタボリックシンドロームの増加など健康課題がある中、現状維持を達成することも、相当の取り組みが必要であると考えております。
3	・5. SDGs の推進 世界的に見直しが始まっている中でそもそもSDGsに突き進んでいいのかを考えたほうがいいと思う。効果のない環境対策に真剣に取り組み、問題の本質が見えなくなっているように感じる。 ・取組② 農林水産業の活性化 なぜ新規就業者目標が減少するのか。取り組んでいないのと同じである。1次産業の保護・育成が観光業をはじめ全ての産業や国民生活にとり必要不可欠であることは明白である。本市においても農業・水産業はそのまま観光業における飲食の提供を行う上で必要不可欠であり、林業についても土砂災害の防止・軽減において非常に重要な産業である。また、SDGsや取組② 持続可能な温泉資源の保護及び活用にもかかわるが発電効率が悪く、廃棄方法も複雑なソーラーパネルや風力発電の建設は災害防止・温泉資源の保護の観点からもやめていただきたい。 ・取組① 教育環境の整備 北欧をはじめいち早くタブレット端末などを教育に取り入れた国が、学力低下が顕著に表れたため紙での教育に戻している。特に小学生にとっては、タブレット操作と授業の聞き取り、まとめなど多くの作業を脳内で処理しなければならず、発達段階ではかなり高度な作業を強いられる。人材育成の観点からも不要であると考える。 ・取組② 移住の促進及び定住に向けた取組 豊後高田市に見習うべきではないか。豊後高田市の取り組みでは将来にわたり市を背負っていく人の創出ができ、短期的に見ても新たな視点で産業・観光業に有益な人が集まっていると感じる。反面、本市においては短期的な「観光業」を担う人材にしか興味がないと見受けられる施策が多く見受けられ、若い世代が転出後、外で経験を積んでも別府に還元されることはないと感じる。 ・取組⑤ 国際感覚豊かな人材の育成 外国人の文化の理解に重きを置いているようだが、相互理解について、日本の文化を理解してもらう努力に重きを置くべきと考える。 教育についても日本人が外国人と交流するときに最も問題になるのは英語力ではなく、自分の国のことを話せないことだとも言う。日本の良いところや文化についてを深く知っていくことが、国際感覚を豊かにし、それを発信していくことで観光業においても好影響につながり、つまりは別府市にとって大いに有益であると考える。 ・3 ひとの創生、取組④ 仕事と子育ての両立ができる社会の実現 本市の課題・弱みについて、「近隣市と比較して教育環境に満足していない市民も一定程度いることから、本市の資源をいかした特色ある教育環境の整備が求められる。」と課題を認識していながら幼稚園を削減した理由が不明である。保育園と幼稚園は管轄省庁も違い、幼稚園は「教育機関」である。それを削減することを決定したにもかかわらず教育環境の整備とはいったい何なのか。 保育園や放課後児童クラブなどについて、園の増加を目標にしているが、仮に園の数が増えても保育士の数が増えなければ預かれる人数に変わりはなく無意味と思う。 この項についてはそもそも論が全般的外れであるため改善どうこう以前の問題と感じた。	・農林水産業の新規就業者数につきましては、現状値4人に対し、目標値を3人としておりましたが、こちらは過去5年間(R1～R5)の中央値(1人)、平均値(2.2人)を上回る値として目標設定しておりますので、数値の低下を目指しているものではございません。5年間の目標値として設定することから、R11目標値を「19人(累計)」と修正いたします。 また、太陽光発電設備や風力発電設備に関しては、温泉資源をはじめとする環境の保全を踏まえ対応すべきと考えます。 ・国際感覚豊かな人材育成 本取組は、国際感覚豊かな人材を育成する観点から実施する相互理解促進のための取組みです。このほか、外国人住民向けに日本の文化的行事を体験してもらう事業も実施しております。 また、取組④において別府学を始めとする郷土学にも取り組んでおります。 ・SDGs・教育環境の整備・移住定住・仕事と子育ての両立 ご意見ありがとうございます。 移住定住につきましては、豊後高田市に限らず他自治体における有効な取組は参考にさせていただきます。 仕事と子育ての両立ができる社会の実現の取組に関しては、実態調査を踏まえた詳細な計画を「別府市第3期子ども・子育て支援事業計画」として策定中です。